

<今回>383回目 2025年12月8日(月)14時10分～17時 602会議室

読書は3冊目「盗まれた神話」ミネルヴァ版 p112 宙に浮いた史書

<前回>第382回目(25-11-24)出席者9名

資料1)第381回(25-11-10)のまとめ(清水)

資料2)弘仁私記(清水)

資料3)日本書紀の格段と古事記の比較構成(高山)

̑ 報告 前回は議論が盛況でまた読書が進まなかった。当日は榛葉氏が久方ぶりに参加されたので八王子セミナーの感想を紹介していただいた。(現地には榛葉氏と岡芹さんが参加した。)榛葉氏の感想を聞いた。講師は通説派の仁藤(文献史学)久住、関川(考古学者)の3方、大墨氏が仕切り役で進行。

1, 仁藤先生は昔からの日本書紀の解説の歴史を学者らしく、レジメも事前配布されて、かなり丁寧に話されていた。気になる点は金印の3段読み、会稽東冶読み、公孫氏の存在の評価は榛葉氏の懇談の席ではそんなに評価していないという。12000里は観念的な数字(大月氏国)古田説は読んでいる。榎一雄の放射線読みが出て、九州内部に収まる可能性がでてきたが、30か国の共立から存立基盤が弱く、**邪馬台国連合**として物資のコントロール機能を統制していたのではないか。

2. 久住先生と関川先生は仲良しではないようだ。比恵那珂遺跡は久住先生、

4. 3講師交えた討論会の印象;3者とも自分の領域にはさすがに深い造詣が感じられるが、共通の概念は天皇一元主義。学問的な解釈では、邪馬台国連合国家論(大小使い分け)、4世紀は古墳時代であり、量産化時代が繰り返される。古田先生の考古学は50年前の物であり、現在はずっと進んでいる。考古学者は皆、近畿説らしい。粗末な献上品でも魏にとっては時宜(景初3年の通説を景初2年の古田説に改めたか明言を避けた)を得たもので、呉の背後者が近づいてきたと過大評価した。(私は倭の五王の武の55国、66国の数字の一国は一国の大きさを吉野ヶ里遺跡くらいの大きさと思っている。九州島と山口県西部。)

B 資料2)弘仁私記は、再度出したもので、黒板勝美氏の研究の集大成。甲本、乙、丙、丁本まである。平安時代になっても弘仁私記を経ても神代記は理解されていない。斎然の宋史日本伝の神代記にはさらに異なる神代記が記されている。(前回資料配布済)

資料 3))高山氏から配布された資料を基に、古事記と日本書紀の一書曰く引用をカラーで分かり易ように説明してくれた。一書は「あるふみ」にと読む。表の分類は北川和秀説、前回説明の A と B と C グループの分け方はこの表の方が分かり易い。C グループの大日メ、月弓が面白い。メの文字の難しさは書いたものがある(原本)証拠、月弓は音が先にあって、文字を半分知っていた人が「よ」を「ゆ」と聞き取ったのか。三ヶ月から想像したのか。A グループは天照大神と書く通常説、B は日神・月神と書く、高のつかない天原、出雲神話は古事記のみに存在する。大八島の生成(紀の四段)も古事記の方が詳細で広範囲である。共通の資料?あるいは古事記も複数の元資料があり、それを安麻呂、稗田の阿礼が文字化したものか。文例は中国古書にあるという研究が進んでいる。芸文類聚(古文の簡易辞典)を座右に於いて文を修飾したという説である。

C 読書 ミネルヴァ版 P110「帝王本紀」の存在。 から 今回も未読

第385回目12月22日(月) 14時10分から17時まで603会議室

第386回2026-1-12(月)15時10分から18時まで603会議室 時間注意

第387回2026-1-26(月)14時10分から17時まで602会議室